

むらかみスケートボードコミッション 基本計画



令和4年3月
新潟県村上市

1 むらかみスケートボードコミッションの設立目的

(1) 設立目的

東京 2020 オリンピック競技大会から新競技となったスケートボードは、オリンピックにおける日本人選手の活躍により、若い世代からの関心が高まっています。

本市においては、国内最大級の屋内スケートパーク施設を有するという強みを、スポーツ振興のみならず、交流人口の拡大、経済的効果の創出など地域課題の解決のため、スポーツと地域資源とを掛け合わせ価値を高めていく必要があります。また、本市は地域再生法に基づいた地域再生計画「スケートボードの聖地『むらかみ』セカンドプロジェクト」があり、スケートボード普及事業、市主催大会及び国内スケートボード大会開催事業、合宿誘致事業を実施し、子どもや若者がアスリートとなる夢をかなえることを応援しています。

こうした地域の課題解決やスポーツ振興、地域活性化の取組を促進し、スケートボードの聖地「むらかみ」に近づけていくため、地域向け活動や対外向け活動を市と民間団体等が連携・協力し一体となって取り組むネットワーク「むらかみスケートボードコミッション（仮）」を設立します。

★各種計画におけるスポーツコミッションの位置づけ

○第3次村上市総合計画（基本計画）

政策4-4 スポーツ

<政策の方針>誰もがスポーツに親しみ、アスリートが育つまちづくり

【現状と課題】

村上市スケートパークでは、ジュニア選手の育成・強化を行い、市内外からスケートボードの愛好者が集う「スケートボードの聖地」を目指す取組を行っています。東京 2020 オリンピック競技大会などの効果もあり、スケートボードを始める人が増加しています。村上市スケートパークの一層のPRを進めるとともに、スケートボード初心者向け教室の充実や、アスリートの育成・支援に力を入れる必要があります。

【主要施策】

- ・競技スポーツの推進（主な取組）

村上市スケートパークを活かして、大会や合宿を積極的に誘致し、観光や商業と融合した地域活性化を図ります。

○第3次村上市教育基本計画（実施計画）

＜教育施策の基本方針＞心身ともに充実するスポーツの振興

【基本施策 15】

- ・競技スポーツの推進（15 - 2 各種大会・合宿の誘致の推進）

屋内スケートボード施設の拠点性を有する市として、大会や合宿を積極的に誘致し、観光との融合による地域活性化を図る取組の実施に努めます。また、合宿チームによるスポーツ教室の実施などアスリートに接する機会の創出に努めます。

○地域再生計画

＜名称＞

スケートボードの聖地「むらかみ」セカンドプロジェクト

＜目標＞

本市は、村上市スケートパークを核として更なる選手育成を進めながら、子どもや若者がアスリートとなる夢をかなえることを応援していくとともに、利用者の裾野を広げ、若者が集い、にぎわいや交流が生まれ、しごとの創出と地域経済の振興につながる地域活性化を図られることを目的として『スケートボードの聖地「むらかみ」セカンドプロジェクト』を実施します。

＜事業内容＞

ア スケートボード普及事業（クラス別スケートボード教室）

初心者クラスと経験者・上達者クラス、アスリートクラスに分け、技術に応じた選手育成を行うことで、各自の技術に合わせた指導を行いながら、目標や夢づくりと村上市スケートパークの継続利用・愛好者の増加を行います。

イ 市主催大会及び国内スケートボード大会開催事業

市主催の大会を実施し、教室参加者を中心に成果披露と技術の向上を目標とする。また、国内メジャー大会を開催することにより、市外からの参加者や選手家族、観覧者による交流の拡大、地域振興を図ります。

ウ 合宿誘致事業

国内、海外合宿の誘致により、本施設の有効活用と知名度の向上を図るとともに、隣接する温泉地域を活かしながら、地域全体としてスケートボード選手の育成拠点化を図ります。

2 スポーツコミッションについて

スポーツ庁は、地方公共団体とスポーツ団体、観光産業等の民間事業者が一体となったスポーツコミッションの設置を推進しています。第2期スポーツ基本計画で掲げた目標値（令和3年度までに設置数170団体）に対して、令和3年10月時点で全国に177団体が存在し目標が達成されています。

スポーツへの参加や観戦を目的とした旅行や、スポーツと観光を組み合わせた取組である「スポーツツーリズム」、市外から参加者を呼び込む「地域スポーツ大会・イベントの開催」、国内外の大規模な「スポーツ大会の誘致」、ナショナルチームなどの「スポーツ合宿・キャンプの誘致」などがスポーツコミッションの代表的な取組です。

本市においても、村上市スケートパークを核として、その強みをいかし、スポーツ振興のみならず、地域課題の解決や交流人口の増加、さらには、スケートボードの「聖地」としてイメージの向上へつなげていく必要があります。官民が連携して取り組むことが効果的である事業について、「むらかみスポーツコミッション（仮称）」がその役割を果たし、事業推進の機能を担うものとしします。

（1）スポーツコミッションの要件

地方公共団体、スポーツ団体、民間企業等が一体となり、スポーツによるまちづくり・地域活性化を推進していく組織の総称であって、スポーツ庁では以下の4つの要件を定めています。

①	一体組織要件 地方公共団体、スポーツ団体、民間企業（観光協会、商工団体、観光産業、スポーツ産業等）などが一体として活動を行っていること。
②	常設組織要件 常設の組織であり、時限の組織でないこと。組織の構成員の常勤・兼務は問わない。
③	対域外活動要件 スポーツツーリズムの推進やスポーツ合宿・キャンプの誘致など域外交流人口の拡大に向けたスポーツと地域資源を掛け合せたまちづくり・地域活性化のための活動を主要な活動の一つとしていること。
④	広範通年活動要件 単発の特定の大会・イベントの開催及びその付帯事業に特化せず、スポーツによる地域活性化に向けた幅広い活動を年間を通じて行っていること。

3 村上市スケートパークの特性分析と統計資料

(1) SWOT分析

村上市スケートパークの特性を把握するため、強み、弱み、機会と脅威4つの方面から分析するSWOT分析（スウォット分析）を行います。そのうえで、各方面を補う方向性で、スポーツコミッション事業展開に向けた活動方針を策定します。

●内部環境分析 [S・W]

(認知度やブランド力、インフラ、価格や品質、資源、立地、サービス、技術力)

強み (Strength) : 内部の良いこと、他に勝る能力

- ・天候に左右されない屋内施設では国内最大級のスケートパークの存在
- ・スケートパークは集客力のある瀬波温泉内に立地
- ・スケートパークに地元競技団体の技術力の存在
- ・東京2020オリンピック競技大会でスケートボード日本代表選手団事前キャンプを本市で実施

弱み (Weakness) : 改善の余地、内部的な悪い点

- ・難易度の高い施設のため初心者にはハードルが高い傾向
- ・経済の活性化を目指す「アウター政策」が希薄
- ・競技者の技術力向上のためハード面での施設整備

●外部環境分析 [O・T]

(市場規模や成長性、競合の状況、景気や経済状況、政治状況、法律)

機会 (Opportunity) : 活用できるプラスの外部環境、要因

- ・県内修学旅行の体験施設としての需要が増加
- ・スポーツ庁による関連施策の推進
- ・東京オリンピックを契機としたスケートボードの人気の高まり
- ・オリンピックの2024パリ大会、2028ロサンゼルス大会でスケートボードの正式種目決定
- ・NTC指定の募集

脅威 (Threat) : 取組を妨げる可能性のある問題、障害物

- ・観光・宿泊ニーズの低迷
- ・スケートボード人気の高まりによるスケートボード施設の増加
- ・感染症による先行きの不透明さ

(2) 実績資料

ア 施設の利用状況

(単位：人)

	R 3	R 2	R 1	令和2年度内訳				
				市内	市外	県外	大人	小人
アリーナ	10,827	9,875	10,363	4,744	3,362	1,769	3,149	6,726
トレーニングコーナー	2,353	2,065	3,158	1,712	306	47	631	1,434
ボルダリング	3,478	3,000	5,656	2,153	689	158	786	2,214
ランニングコース	1,682	805	1,503	682	92	31	688	117
多目的室	1,912	697	0	658	27	12	12	685
合計	20,252	16,442	20,680	9,949	4,476	2,017	5,266	11,176

イ スケートボード普及事業

① 初心者体験教室

(単位：人)

	回数	延べ人数	市内	市外	備考
令和3年度	41	1,193	822	371	毎週水曜日開催
令和2年度	43	1,041	635	406	毎週水曜日開催
令和元年度	40	1,636	894	742	毎週水曜日開催

② ミドルスクール

(単位：人)

	回数	延べ人数	市内	市外	備考
令和3年度	29	184	37	147	毎週土曜日開催

ウ 主な大会・合宿の開催・受入

- ・第3回日本スケートボード選手権大会（令和元年度）
- ・インドネシアナショナルチームの強化合宿（令和元年度）
- ・大韓民国ローラースポーツ連盟の強化合宿（令和元年度）
- ・東京2020オリンピック競技大会スケートボード日本代表選手事前キャンプ（令和3年度）
- ・S GAMES IN MURAKAMI（市主催大会。令和2年度、令和3年度）
- ・JSF パークスタイルコンテスト（令和元年度）

エ 観光連携事業

- ・こいっしゅ村上 welcome 南魚沼スケートボーダーの旅（令和3年度）

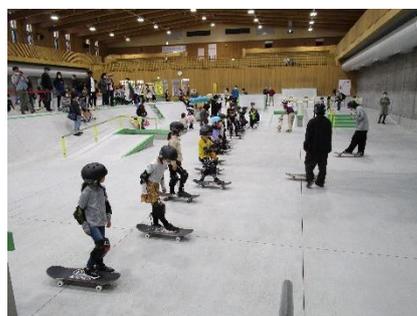
4 むらかみスケートボードコミッションの活動方針について

(1) 村上市スケートパークが目指している将来像

- ・アスリートを目指すジュニア選手を応援している施設となっている。
- ・トップレベルの競技者が強化活動を行う施設となっている。
- ・市内の小中学校や県内外の教育旅行等の体験施設となっている。
- ・市内の町内活動や事業所の体験施設となっている。
- ・国内のメジャー大会、国内外の合宿が行われる施設となっている。
- ・村上市スケートパークを核として観光や商工業と融合した取組が行われ地域経済の活性化につながっている。
- ・村上市スケートパークのほか、市内にスケートボードが練習できる場所が整備されている。
- ・スケートボードの聖地をイメージする造形物等が市内に配置されている。

(2) 将来像を実現のための活動方針

- 1 スケートボードの選手を育成する取組を進めます。
- 2 市内の町内・事業所に施設利用していただく取組を進めます。
- 3 教育旅行等の体験施設として利用していただく取組を進めます。
- 4 競技者を「ささえる」設備の充実や大会、合宿を誘致する取組を進めます。
- 5 観光や商工業と融合した地域経済の活性化につながる取組を進めます。



(3) 主要な施策

●活動方針1 スケートボードの選手を育成する取組を進めます

No.	方策	事業名	備考
①	スケートボード体験会の実施	スケートボード体験会の開催	継続
②	クラス別スケートボード教室の実施	初心者体験教室の開催	継続
		ミドルクラス育成教室の開催	継続
③	スケートボーダー育成のキャンプの実施	スケートボーダー育成キャンプのモデル事業	新規

●取組年度と体制

事業名	年度					備考
	4	5	6	7	8	
① スケートボード体験会の開催	→					
② 初心者体験教室の開催	→					
③ ミドルクラス育成教室の開催	→					
④ スケートボーダー育成キャンプのモデル事業	→					

●活動方針2 市内の町内・事業所に施設利用していただく取組を進めます

No.	方策	事業名	備考
①	市内利用の普及活動の推進	町内・事業所向け体験プランのパッケージ整備とPR	新規

●取組年度と体制

事業名	年度					備考
	4	5	6	7	8	
① 町内・事業所向け体験プランのパッケージ整備とPR			→			

●活動方針3 教育旅行等の体験施設として利用していただく取組を進めます

No.	方策	事業名	備考
①	市内小中学校等の利用 推進	学校体育支援事業	継続
②	県内・近隣県への普及 活動の推進	教育向け体験プランのパ ッケージ整備とPR	新規

●取組期間と体制

事業名	年度					備考
	4	5	6	7	8	
① 学校体育支援事業	→					
② 教育向け体験プランの パッケージ整備とPR	→					

●活動方針4 競技者を「ささえる」設備の充実や大会、合宿を誘致する取組を進めます。

No.	方策	事業名	備考
①	競技者を「ささえる」設 備の充実	競技者を「ささえる」設 備の検討	新規
②	市主催大会の実施	市主催大会の開催	継続
③	国内メジャー大会の誘 致	国内メジャー大会の誘致	継続
④	国内外の合宿の誘致	国内外の合宿の誘致	継続

●取組期間と体制

事業名	年度					備考
	4	5	6	7	8	
① 競技者を「ささえる」設 備の検討	→					
② 市主催大会の開催	→					
③ 国内メジャー大会の誘 致	→					

④	国内外の合宿の誘致						
---	-----------	--	--	--	--	--	--

●活動方針5 観光や商工業と融合した地域経済の活性化につながる取組を進めます

No.	方策	事業名	備考
①	誘客イベントの実施	施設を核とした誘客事業の開催	新規
②	異分野との連携事業の実施	異分野連携事業の検討 (健康、アート、スポーツDXなど)	新規
③	オリジナル商品等の開発	オリジナル商品等の検討 (ボード、食など)	新規
④	スケートボードの聖地イメージづくり調査	スケートボードの聖地イメージづくり調査	新規

●取組期間と体制

事業名	年度					備考
	4	5	6	7	8	
① 施設を核とした誘客事業の開催 R4：キャンプ参加者等によるイベント	●			●		
② 異分野連携事業の検討						
③ オリジナル商品等の検討						
④ スケートボードの聖地イメージづくり調査						

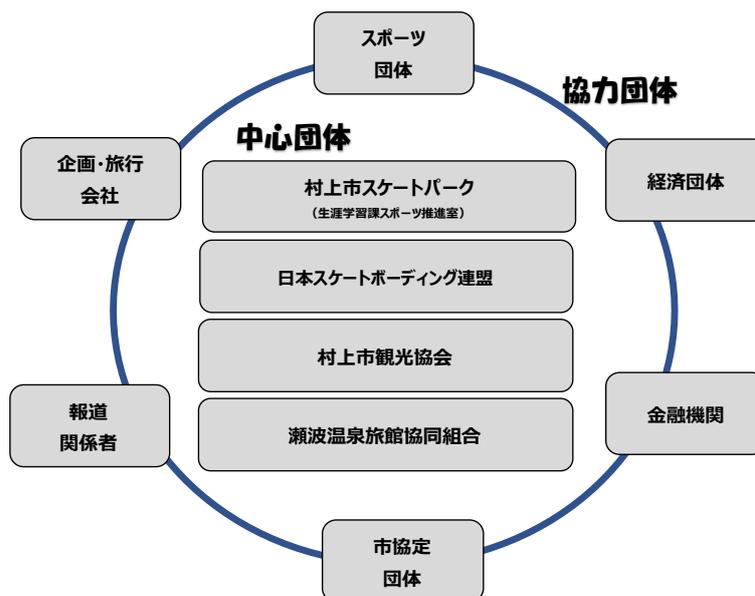
5 スポーツコミッションの組織体制について

(1) 組織体制 (案)

- 令和4年3月にむらかみスケートボードコミッションを設立することを目標とします。設立準備委員会を継続し、必要により構成メンバーの拡充を図ることとします。
- 事務局は村上市スケートパーク内(教育委員会生涯学習課スポーツ推進室)に置き、関係機関・団体により構成する。法人格を有しない任意団体の位置づけとします。
- スポーツ庁の補助制度を活用して事業を実施することから、当面は、市で事務局を担うこととしますが、村上市スケートパークを核とした取組であり、施設の管理運営と連動した取組となるため、今度検討される指定管理などを踏まえ、将来の施設管理者を事務局機能の移行先として検討します。市は生涯学習課スポーツ推進室を中心に、観光課等の関係部署が連携を図りながら対応することとします。

(2) 構成メンバー、関係機関とのネットワーク

- 設立準備委員会の構成団体は、中心団体として継続移行することとします。
- 関係機関・団体とのネットワークを図るため、スポーツ団体、経済団体、金融機関、企画・旅行会社、報道関係者、市協定団体などの参画を必要に応じて呼びかけ、協力団体として構成メンバーの充実を図っていくこととします。



(3) 将来的なあり方

村上市スケートパークの管理体制のあり方も踏まえ、自立的な組織運営への移行を視野に、地域SCの認知向上や自主財源確保に向けた取り組みも行っていくこととします

(4) 活動資金について

○スポーツ庁の補助制度や企業版ふるさと納税寄付などを活用しながら事業を実施することとします。

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
活用可能な補助制度	スポーツ庁補助金 (地域SC設立支援)	スポーツ庁補助金(地域SC経営多角化支援)			
村上市	—	事業内容により市負担の検討			
企業版ふるさと納税	実績2件	スケートボードの聖地「むらかみ」セカンドプロジェクトを企業にPR			
自主財源	—	自主財源(収益事業)の確保策を検討			
その他活用可能な制度	—	活用可能な制度の検討			

資料編

1 むらかみスポーツコミッション設立準備委員会 開催経過

回	開催日	内容
1	令和3年 11月16日(火)	第1回設立準備委員会 ・地域SC設立趣旨 ・本年度事業予算 ・視察 ・広報宣伝ツール
2	令和3年 12月20日(月)	第2回設立準備委員会 ・先進地の取組と村上市のあり方(事業、資金、団体構成)
3	令和4年 2月15日(火)	第3回設立準備委員会 ・地域SC基本計画書、事業、規約
4	令和4年 3月18日(金)	第4回設立準備委員会 ・事業報告と構成団体への代表説明、設立
5	令和4年 4月	地域SC設立式 ・設立趣旨の説明、PR動画紹介

2 むらかみスポーツコミッション設立準備委員会 名簿

〈委員〉

(順不同・敬称略)

	所属	氏名	備考
1	日本スケートボーディング連盟 代表理事	佐藤 巧	
2	日本スケートボーディング連盟 副代表理事	平野 英功	
3	日本スケートボーディング連盟 監事	平野 富美子	
4	村上市観光協会 事務局長	片野 将	
5	瀬波温泉旅館協同組合 事務長	瀬山 直徳	
6	村上市教育委員会生涯学習課 課長	大滝 寿	座長
7	村上市企画財政課企画政策室 室長	田中 和仁	
8	村上市観光課観光交流室 室長	片岡 昌幸	

〈アドバイザー等〉

	所属	氏名	備考
1	デロイトトーマツファイナンシャル アドバイザー合同会社	後藤 佑介	計画
2	(株)エアークセル	村木 徹太郎	資金
3	(株)グリッド	椿 英明	広報宣伝
4	日本スポーツツーリズム推進機構 地域スポーツ戦略プランナー	滝田 佐那子	

〈事務局〉

	所属	氏名	備考
1	生涯学習課スポーツ推進室 室長	倉松 淳志	
2	生涯学習課スポーツ推進室 係長	石栗 英俊	

3 スポーツとSDGs

SDGs (Sustainable Development Goals) とは、国連が定めた持続可能な開発目標の総称で、17の大きな目標と169のターゲットなどで構成された世界共通の行動方針といえます。スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものとされており、スポーツがその役割を果たすことを期待されています。



本計画におけるSDGsの大きな目標とスポーツとの関係を記載します。

SDGsの大きな目標		大きな目標とスポーツとの関係
1 貧困をなくそう	1 貧困をなくそう	スポーツは、幸せや、経済への参加、生産性、レジリエンスへとつながりうる、移転可能な社会面、雇用面、生活面でのスキルを教えたり、実践したりする手段として用いることができます。
2 飢餓をゼロに	2 飢餓をゼロに	栄養と農業に関連するスポーツ・プログラムは、飢餓に取り組む食料プログラムや、この問題に関する教育を補完するうえで、適切な要素となりえます。対象者には、持続可能な食料生産やバランスの取れた食生活に取り組むよう、指導を行うことができます。
3 すべての人々に健康と福祉を	3 すべての人々に健康と福祉を	運動とスポーツは、アクティブなライフスタイルや精神的な安寧の重要な要素です。非伝染性疾患などのリスク予防に貢献したり、性と生殖その他の健康問題に関する教育ツールとしての役割を果たしたりすることもできます。
4 質の高い教育をみんなに	4 質の高い教育をみんなに	体育とスポーツ活動は、就学年齢児童の正規教育システムにおける就学率や出席率、さらには成績を高めることができます。スポーツを中心とするプログラムは、初等・中等教育以後の学習機会や、職場や社会生活でも応用できるスキルの取得に向けた基盤にもなりえます。
5 ジェンダー平等を実現しよう	5 ジェンダー平等を実現しよう	スポーツを中心とする取り組みやプログラムが、女性と女兒に社会進出を可能にする知識やスキルを身に着けさせる潜在的可能性を備えている場合、ジェンダーの平等と、その実現に向けた規範や意識の変革は、スポーツとの関連で進めることもできます。
6 安全な水とトイレを世界中に	6 安全な水とトイレを世界中に	スポーツは、水衛生の要件や管理に関するメッセージを発信するための効果的な教育基盤となりえます。スポーツを中心とするプログラムの活動と意図される成果を、水の利用可能性と関連づけることによって、この問題の改善を図ることもできます。

SDG s の大きな目標	大きな目標とスポーツとの関係	
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>スポーツのプログラムと活動を、省エネの話し合いと推進の場として利用すれば、エネルギー供給システムと、これに対するアクセスの改善をねらいとする取り組みを支援できます。</p>	
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>スポーツ産業・事業の生産、労働市場、職業訓練は、女性や障害者などの社会的弱者集団を含め、雇用可能性の向上と雇用増大の機会を提供します。この枠組みにおいて、スポーツはより幅広いコミュニティを動員し、スポーツ関連の経済活動を成長させる動機にもなります。</p>	
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>レジリエンスと工業化のニーズは、災害後のスポーツ・娯楽用施設の再建など、関連の開発目標の達成をねらいとするスポーツ中心の取り組みによって、一部充足できます。スポーツはこれまで、開発に向けたその他従来型のツールを補完し、開発と平和を推進するための革新的な手段として認識されており、実際にもそのような形で利用されてきました。</p>	
 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> <p>開発途上国におけるスポーツの振興と、スポーツを通じた開発は、途上国間および先進国との格差を縮めることに貢献します。スポーツは、その人気と好意度の高さにより、手を差し伸べることが難しい地域や人々の不平等に取り組むのに適したツールといえます。</p>	
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>スポーツにおける包摂と、スポーツを通じた包摂は、「開発と平和のためのスポーツ」の主なターゲットのひとつとなっています。気軽に利用できるスポーツ施設やサービスは、この目標の達成に資するだけでなく、他の方面での施策で包摂的かつレジリエントな手法を採用する際のグッドプラクティスの模範例にもなります。</p>	
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>スポーツ用品の生産と提供に持続可能な基準を取り入れれば、その他の産業の消費と生産のパターンで、さらに幅広く持続可能なアプローチを採用することに役立ちます。この目的を有するメッセージやキャンペーンは、スポーツ用品やサービス、イベントを通じて広めることができます。</p>	
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>観光を伴う大型スポーツ・イベントをはじめとするスポーツ活動やプログラム、イベントでは、環境の持続可能性についての認識と知識を高めることをねらいとした要素を組み入れるとともに、気候課題への積極的な対応を進めることができます。また、被災者の間に絆と一体感を生み出すことで、災害後の復興プロセスを促進することも可能です。</p>	
 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> <p>水上競技など、スポーツ活動と海洋とのつながりを活用すれば、スポーツだけでなく、その他の分野でも、海洋資源の保全と持続可能な利用を提唱できます。</p>	
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p> <p>スポーツは、陸上生態系の保全について教育し、これを提唱する基盤となりえます。屋外スポーツには、陸上生態系の持続可能で環境にやさしい利用を推進するセーフガードや活動、メッセージを取り入れることもできます。</p>	
 <p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p> <p>スポーツは復興後の社会再建や分裂したコミュニティの統合、戦争関連のトラウマからの立ち直りにも役立つことがあります。このようなプロセスでは、スポーツ関連のプログラムやイベントが、社会的に隔絶された集団に手を差し伸べ、交流のためのシナリオを提供することで、相互理解や和解、一体性、平和の文化を推進するためのコミュニケーション基盤の役割を果たすことができます。</p>	
 <p>17 パートナースHIPで目標を達成しよう</p>	<p>17 パートナースHIPで目標を達成しよう</p> <p>スポーツは、ターゲットを絞った開発目標に現実味を与え、その実現に向けた具体的な前進を達成するための効果的手段としての役割を果たします。スポーツ界は、このような活動の遂行その他を通じ、草の根からプロのレベル、また、民間から公共セクターに至るまで、スポーツを持続可能な開発に活用するという共通の目的を持つ多種多様なパートナーやステークホルダーの強力なネットワークを提供できます。</p>	